

島根大学

小学校高学年を対象とした自然教室を実施

島根大学演習林 山下多聞

平成 30 年度から島根県立三瓶自然館サヒメル (<https://www.nature-sanbe.jp/sahimel/>) との共催で開催しているサヒメル科学探険隊活動も 4 年目を迎えました。令和 3 年度は 10 月 24 日 (日) に、サヒメル科学探険隊の第 4 回「大学の研究者と一緒に活動！樹木の葉の成長を観察しよう！」を実施しました。参加者は三瓶自然館の学芸員 2 名 (探険隊長とよばれています) と小学校 4 年生から 6 年生の児童十数名で、演習林スタッフ 3 名が指導にあたりました。

午前中の一時間目には三瓶演習林を散策し、樹木の葉や芽、葉脈について学習しました。ヤマグワ、イヌシデ、ミズキ、サルトリイバラ、ウリハダカエデなど様々な樹木を見つけることができました。子どもたちは葉の形をスケッチしたり、紙の上から鉛筆でこすって葉脈を写し取ったりして観察しました。演習林スタッフに樹木の名前や特徴をどんどん質問し、草花や生きものにも目を向けていく子どもたちは好奇心旺盛で小さくても頼もしい探険隊員です。

午後は小豆原埋没林公園 (<https://www.nature-sanbe.jp/azukihara/>) の施設に移動して二時間目の授業を受講しました。創作折り紙が得意な技術スタッフと一緒に、三瓶周辺に多くみられるイヌシデの葉の折りたたみ方を折り紙で再現し、芽吹いた時に広げやすい葉の葉芽の中での収納方法について考えました。折り紙が大の苦手だという児童も粘り強く取り組みました。折りあがった紙の葉を用いた実験で、イヌシデの葉の折りたたみ方が省コストで芽吹き後すばやく展葉することにつながるのではないかなど考えを巡らせました。この葉の折りたたみが、宇宙開発や産業分野で幅広く利用されている“ミウラ折り”に共通したものであるということも学び、子どもたちはパッと開いてパッと閉じることのできる“ミウラ折り”に興味津々でした。

例年は三瓶演習林庁舎で午後の活動も実施していたのですが、令和 3 年度は庁舎内講義室の広さに対して受講生数が多く COVID-19 感染拡大対策として小豆原埋没林公園のホールを利用させていただくことになりました。来年度は演習林庁舎で実施できるよう願っております。

サヒメル科学探険隊の皆さん、ご参加ありがとうございました。授業では、Ask Nature Japan “葉っぱの折り紙” を参考にさせていただきました。



写真 1.

葉っぱの形のいろいろを解説@三瓶演習林庁舎前

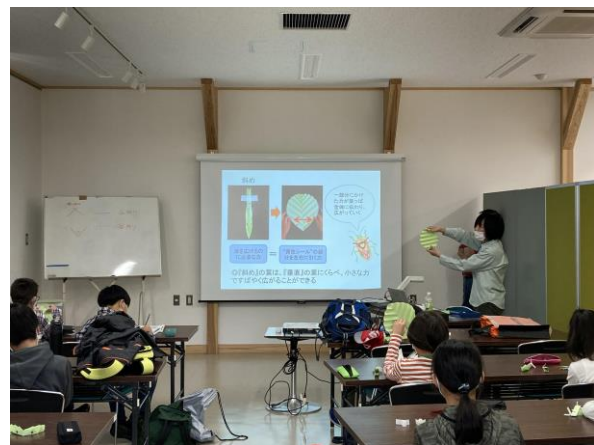


写真 2.

折り紙で考える葉っぱの成長@小豆原埋没林公園